

718 子宮体部腫瘍の1例

山田隆司¹⁾、岡田仁克¹⁾、辻 求¹⁾、芝山雄老¹⁾
金村昌徳²⁾、寺井義人²⁾、大道正英²⁾
大阪医科大学 病理学教室¹⁾、産婦人科学教室²⁾

【患者】50代後半、女性

【主訴】不正性器出血

【既往歴】特記事項なし

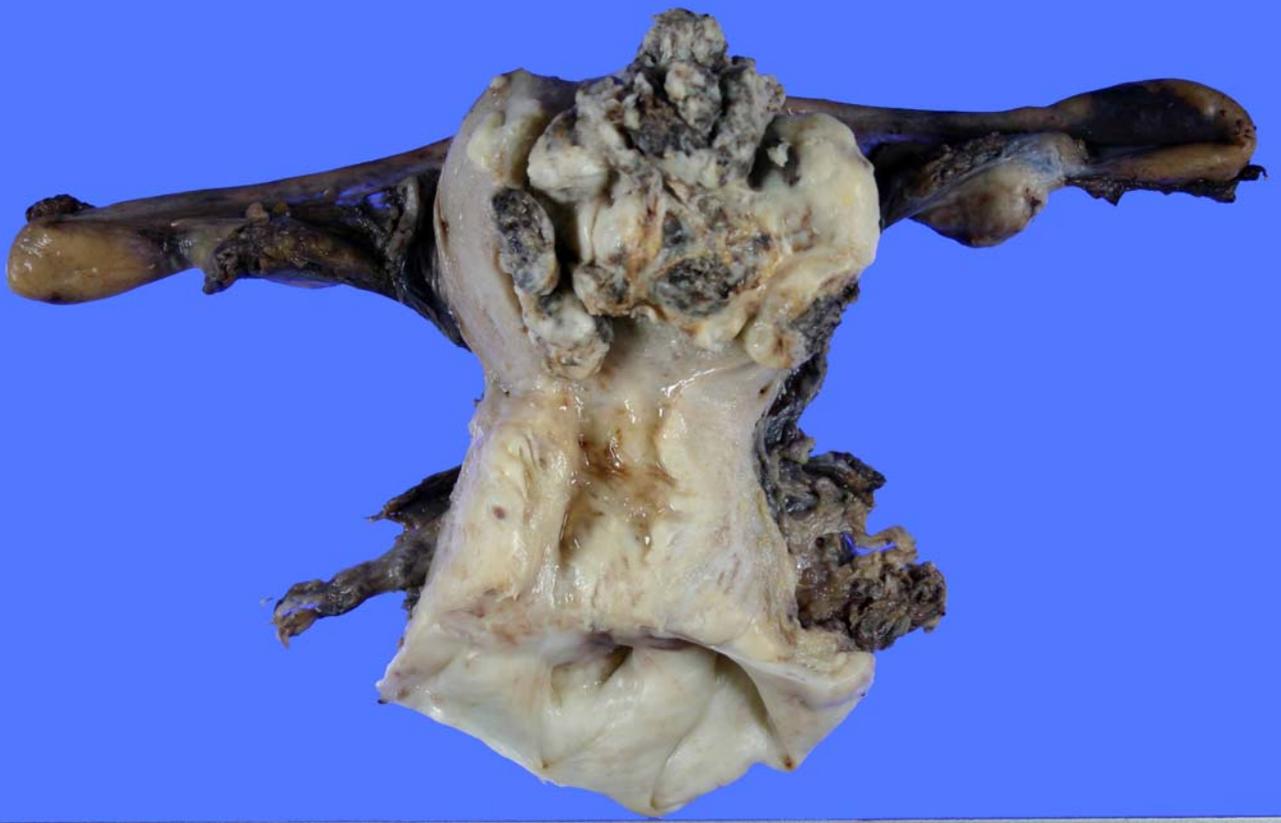
【月経歴】初経・12歳、6年前に閉経

【妊娠歴】1回経妊・1回経産

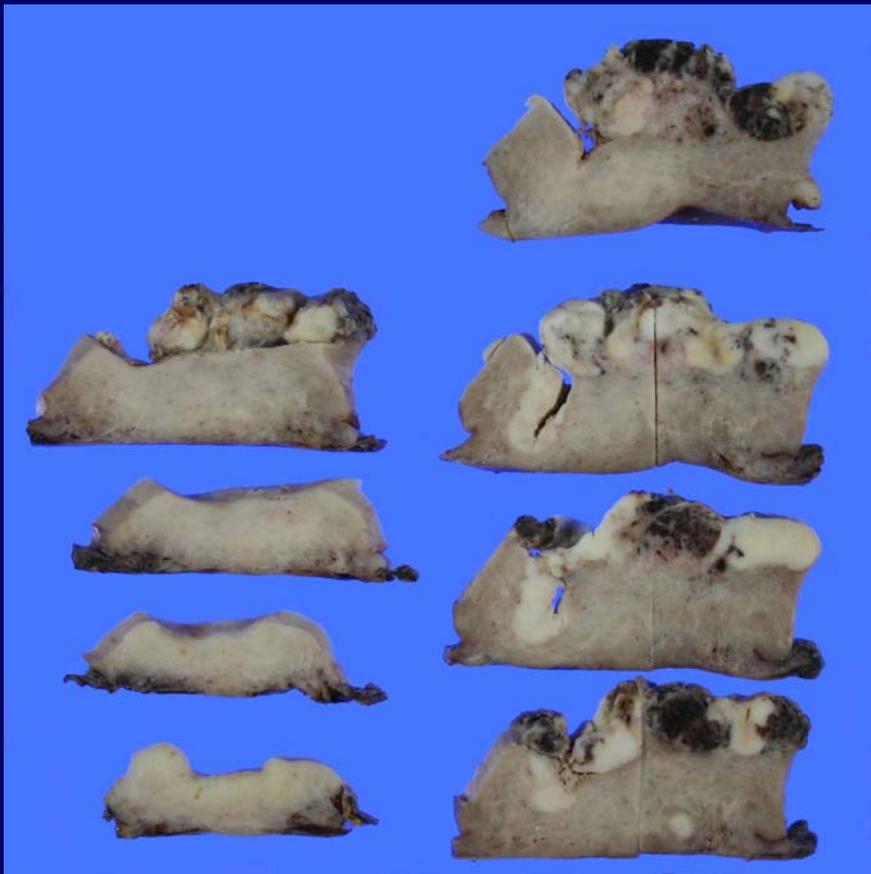
【現病歴】上記主訴にて来院したところ、子宮腫瘍を指摘され、摘出手術を受けた。術前の血中腫瘍マーカー値は、CEA: 0.4 ng/mL (基準値<2.5), CA 19-9: 9.4 U/ml (基準値<37), SCC: 0.8 ng/ml (基準値<1.5), CA 125: 8.4 U/ml (基準値<35), CA 153: 6.3 U/mL (基準値<30)であった。腫瘍は子宮内膜から内腔側へ外向発育しており、組織学的に、明瞭な腺腔形成がみられる部分と充実性増殖の部分がみられた。また、充実性増殖部分では、細胞異型の強い細胞がみられた。

【問題点】病理組織診断

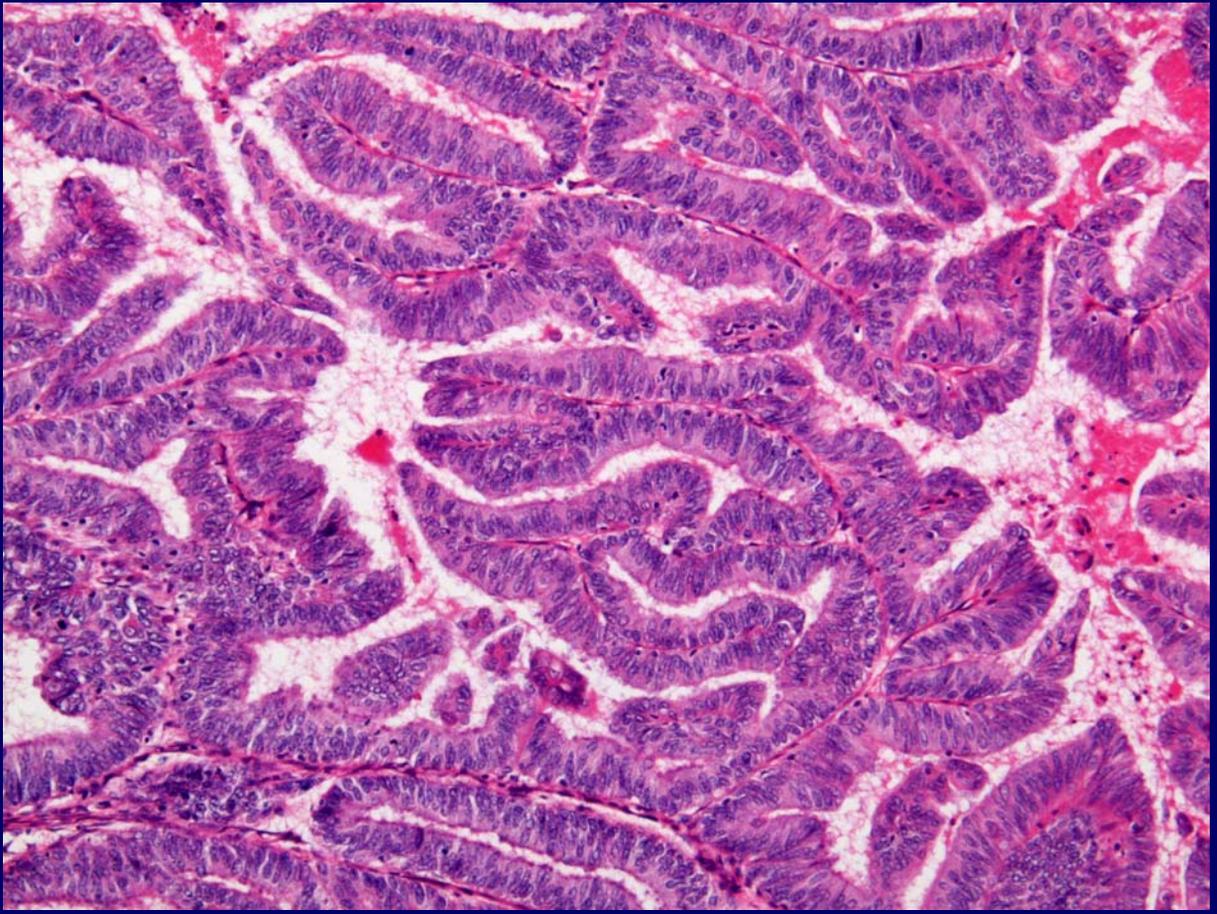
肉眼 - 1



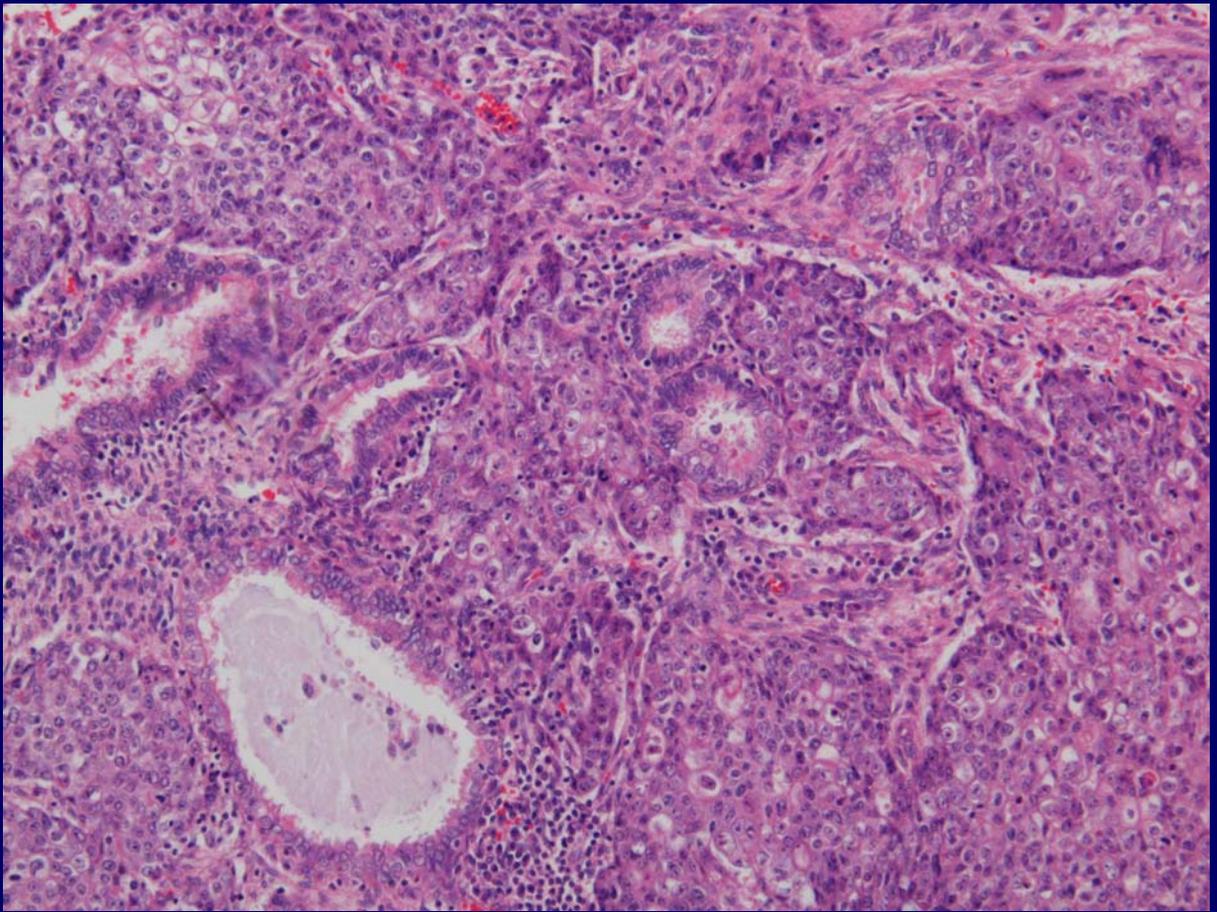
肉眼 - 2



腫瘍- 1



腫瘍- 2



腫瘍 - 3

